



地域資源を核とした地域産業の未来の扉を拓くテクノロジストの育成

人口減少（流出）・少子高齢化が進む今後、特に県内の製造業や建設業における人手不足や、地域の衰退は深刻化することが想定されることから、地域の活力づくりや地域の産業振興を担う人材の育成が課題

課題

育成
人材
像
すべき

の地
域と
協働

育成
する
力

研究
プ
ロ
グ
ラ
ム

成果

地域産業の担い手不足

地域産業を担うテクノロジストの育成

地域産業界から求められる資質・能力に基づいた、IoT、AI等を活用した生産性の向上及び、地元産業を担い発展に寄与できる人材の育成

地域の活性化

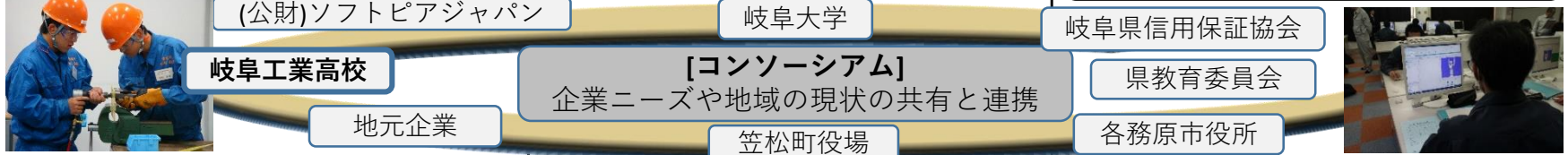
地域を愛するテクノロジストの育成

地域の魅力や課題を発見し、ものづくりを通して新たなビジネスを提案できる人材の育成

地域の防災・災害時対応

地域を守るテクノロジストの育成

地域の防災における課題を探究するとともに、ものづくり・工業技術を通して課題解決に向けた、災害に強い街づくりを提案できる人材の育成



- (1)産業界が求める確かな知識や技術力
- (2)工業技術の進展に対応し、使い手の志向を分析し解決する力
- (3)地域産業の魅力発見や、地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度

- (1)分野横断的に関連付けた知識や技術力
- (2)創造力を生かした提案・改善ができる力
- (3)地域の魅力発見や、課題探求・課題解決及び地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度

- (1)工業技術と地域防災に関連付けた知識や技術力
- (2)科学的な根拠に基づいて解決する力
- (3)安全への課題探求・課題解決及び地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度

【地域の産業、企業の発見】
インターンシップ・企業見学 等
○全学科

【地域産業人材の育成】
「製造業」を担う人材育成
○航空・機械工学科群、航空機械工学科、電子機械工学科、機械科、電子機械科
「第4次産業」を担う人材育成
○電気・電子工学科群、電子工学科、電子科
「建設業」におけるICT化を担う人材育成
○建設・デザイン工学科群、建設工学科

【地域理解と魅力発信】
地元観光MAP作成やPRグッズの提案 等
○建設・デザイン工学科群、デザイン工学科

【新たなビジネスモデル提案】
プロジェクションマッピング 等
○化学・設備工学科群、設備システム工学科、設備システム科

【地域貢献】
○ものづくりを通して街の活性化 等

岐阜エテクノLAB
全学科協働の生徒主体のワーキンググループ

【防災・減災】
ドローン等を活用した防災・減災 等
○建設・デザイン工学科群、デザイン工学科

【災害時対策】
飲料水製造ろ過技術の開発、自然エネルギーによる発電 等
○化学・設備工学科群、化学技術工学科、化学技術科、電気・電子工学科群、電気工学科、電気科

○地域や地域産業を維持、発展させるために、課題を見出し、その意義・本質から解決策を求めていく行動力
○IoT、AI等のICT技術を活用し、新たなビジネス、サービスの提供ができる力
○関連企業が求める資質・能力、県内就労率の向上及び安心・安全な生活が送れる魅力ある地域づくりに貢献できる力

ふりがな	ぎふけん	ふりがな	ぎふけんりつぎふこうぎょうこうとうがっこう
管理機関名	岐阜県	学校名	岐阜県立岐阜工業高等学校

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：岐阜県教育委員会

代表者名：教育長 安福 正寿

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：岐阜県立岐阜工業高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：江口 健治郎

研究を実施する学科（プロフェッショナル型のみ）：

①単独学科での実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
		○						
②学科連携による実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉

2 取組内容

育成を目指す人物像

Society5.0 が目指す社会について、人工バランスや生活の基盤となるあらゆる産業が高度に調和した世界であることを理解して、社会の変化に対応できる「幅広い視野と高い見識や技術」をもち、工業技術と現代社会が抱える諸問題とのマッチングを図り、「課題発見力・創造力」と「取り組みの評価収集からデータ分析を用いてブラッシュアップする力」を身に付け、「積極的に地域をより良くしよう」とする思いから行動して、地域に希望をもたらすことができるテクノロジスト人材。

(1) 地域産業を担うテクノロジストの育成

「製造業」、「第4次産業」、「建設業」において地域産業から求められる資質・能力の育成を目指す教育を実践することにより、地域や地域産業の発展に寄与できる人材の育成ができるとともに、離職率の低下にも期待がもてると考える。

育成を目指す生徒の資質・能力

- ①地域の各産業界から求められる力を理解するとともに、そのために必要な技術を身に付けることにより、正確な加工や測定等ができる等の「産業界が求める確かな知識や技術力」の育成。【知識及び技術】
- ②建設業における ICT の活用や、様々な製品をインターネットと接続した IoT 活用などの新しい技術の活用を視野に入れ、環境や安全性などに配慮した使用者目線で創造ができる「工業技術の進展に対応し、使い手の志向を分析し解決する力」の育成。【思考力・判断力・表現力等】
- ③地域産業において、社会的な役割の維持、発展に寄与する力の向上を目指して自ら学び、主体的に課題に取り組み、常に良い製品を作ろうとする「地域産業の魅力発見や、地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度」の育成。【学びに向かう力・人間性等】

ア 地元の産業、企業の発見

- ①各企業における事業内容のみならず、各産業の社会的意義、仕事の種類及び内容について

て理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

- ②各企業の理念等を踏まえて、新しい技術の活用を視野に入れ、工業に携わる者に求められる倫理観を考慮しつつ技術の進展に対応して解決する力を養う。
- ③地元企業の維持や発展に寄与することを目指して自ら学び、地元産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・岐阜県商工労働部と連携した企業見学会の実施。
- ・インターンシップによる就業体験（第2学年）及び情報の共有。

イ 地域産業人材の育成

(ア) 製造業を担う人材育成

- ①部品の製造のみならず、全体の構造などを理解するとともに、設計から製品の製造という一連の工程を通して、金属加工等における正確な作業を身に付けるようにする。
- ②使用者の安全に配慮し、品質に係る規則、製造規格や材料規格等も考慮した加工技術に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、結果を検証し改善する力を養う。
- ③地域の製造業の特色に興味をもち、金属加工技術について自ら学び、製造業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・「モノづくり教育プラザ2号館」の実機を活用した航空機組立やエンジン分解の実習教材の開発。
- ・講師を招き、金型の種類、構造、材料、製作手順、加工法の習得。 等

(イ) 第4次産業を担う人材の育成

- ①第4次産業について理解するとともに、超小型マイコンボードにより、ソフトとハードを組み合わせ、市販製品の開発手法を取り入れたアプリケーション等の開発手法を身に付けるようにする。
- ②クライアントの要望を高い品質で満たすアプリケーションなどの製品の開発手法について、課題を見いだすとともに解決策を考え、結果を検証し改善する力を養う。
- ③これからの生活スタイルに合わせたIoTを活用する方法について自ら学び、第4次産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・マイコンを使ったプログラミング実習（工業技術基礎・実習・情報技術基礎）の研究開発の実施。 等

(ウ) 建設業におけるICT化を担う人材育成

- ①BIMやCIMに関わる技術の活用方法とICT技術による生産技術について理解するとともに、ドローンによる測量などの活用技術を身に付けるようにする。
- ②ICT技術による安全性の向上に着目し、現場での施工方法の最適化に関する課題を見いだすとともに、解決策を考え、結果を検証し改善する力を養う。
- ③建設業の担い手としての自覚を持ち、安全で安心な建物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建設の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・ICT建設機械とドローンを活用に関する実情についての研究の実施。 等

(2) 地域を愛するテクノロジストの育成

高校生が地域に魅力を感じて、「住み続けたい」や、進学等で地域を離れても、「地元に戻って働きたい」と思えるよう3年間の学びを深化させ、郷土に愛情を持って、地域貢献ができるテクノロジストの育成を目指す。

育成を目指す生徒の資質・能力

- ①地域の魅力や現状を理解し、課題解決に向けて、専門分野のみならず様々な分野の知識を習得し、関連する技術を身に付けるようにする「分野横断的に関連付けた知識や技術力」の育成。【知識及び技術】
- ②従来の方法にとらわれず、新しい視点による発想ができる「創造力を生かした提案・改善ができる力」の育成。【思考力・判断力・表現力等】
- ③魅力ある街づくりを目指して、地域のためにとという想いをもち、それに向けて行動できる「地域の魅力発見や、課題探求・課題解決及び地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度」の育成。【学びに向かう力・人間性等】

ア 地域理解と魅力発信

- ①地域の現状を理解するとともに、魅力を理解・発見する力を身に付けるようにする。
- ②地元観光 MAP 等の製作やユニバーサルデザインの視点を盛り込んだ解決策を考え、SNS などを活用した効果的な情報発信等の提案や、効果、結果を検証し改善する力を養う。
- ③笠工屋台（ワークショップが実践可能な屋台）を活用した、地域住民等と生徒とのコラボにより地域の魅力発見及び地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・笠松町との協働による、観光マップの制作による魅力発信。 等

イ 新たなビジネスモデル提案

- ①起業に必要な法的（知的財産権等含む）・経済的な知識の習得や、プロジェクションマッピングによる新しいサービスを提供するために必要なソフトウェア技術を身に付けるようにする。
- ②ふるさと納税の返礼品として、例えば、納税者にプロジェクションマッピングを提供するために、要望に沿った提案や改善する力を養う。
- ③納税者の要望を叶えるため等の課題解決に向けて、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・地域の特性や特徴を理解し、新たなビジネスモデルや返礼品としての提案。 等

ウ 地域貢献

- ①地域の方とのふれあいから地域の歴史や現状を理解するとともに、課題解決に向けて関連する技術を身に付けるようにする。
- ②小・中学校での出前授業や地域の祭りにおいて、ものづくりの楽しさが伝わり、未学習者にも分かりやすく表現する力を養う。
- ③地域のためにとという想いをもち、地域の発展に向けて主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・小学校のプログラミング教育支援や小・中学校への出前授業。 等

(3) 地域を守るテクノロジストの育成

災害から地域を守るために、地域防災に係る課題探究を進める。

育成を目指す生徒の資質・能力

- ①地域防災等の現状を知り、工業技術により地域住民の生活を守ることに貢献するものづくりができる「工業技術と地域防災を関連付けた知識や技術力」の育成。【知識及び技術】

- ②地域防災等の現状から、高校生ができることを考え、防災等につながる工業技術について、実験を繰り返し行うことなどにより、その結果を科学的に考察して改善に結び付けることができる「科学的な根拠に基づいて解決する力」の育成。【思考力・判断力・表現力等】
- ③地域の方と防災、減災等の課題に向き合い、工業技術等により地域を守ろうとする想いをもち、それに向けて行動することができる「安全への課題探求・課題解決及び地域貢献に向けて、主体的・協働的に取り組む態度」の育成。【学びに向かう力・人間性等】

ア 防災・減災

- ①地域防災の観点からの建築・土木全般の幅広い知識を習得し、ドローン等の ICT を活用した防災に関連する技術を身に付けるようにする。
- ②地域に想定される災害に対して、専門性を生かした地域防災・減災への提案を行い、その効果について検証して改善する力を養う。
- ③地域や自身の安全に向き合い、工業技術により、主体的・協働的に地域を守ろうとする想いをもち、取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・岐阜県や笠松町などから外部講師を招き、ドローン等 ICT を活用した災害対策や地域防災計画に関する内容についての講話等より研究の実施。等

イ 災害時対策

- ①地域における災害時対策を理解するとともに、飲料用水製造ろ過技術や自然エネルギーを活用した発電技術について身に付けるようにする。
- ②実際の災害時に起こりうる課題を発見し、地域での効果的なろ過技術や災害時にも発電できる方法等の工業技術において解決を試みて、その結果から改善する力を養う。
- ③太陽光発電等の自然エネルギーを身近に感じ、電気や水の大切にして、地域を守ろうとする想いをもち、主体的・協働的に取り組む態度を養う。

初年度の研究開発実施計画

- ・災害時のライフラインに関する調査の実施。等

評価の方法については、生徒による自己評価や教員の評価における、例えば「正確に測定できる技術」等の関連企業から求められた資質・能力についての達成度のみならず、実習をサポートいただく熟練技能者等の外部講師からの評価において、企業水準を基に、高校生段階で求めるレベルを設定して、技能や思考錯誤の過程、作業に向かう姿勢等を客観的に評価いただいたり、様々な外部の方と協働で取り組む中での、外部の方からアンケートや聞き取りによる評価を改善へとつなげるとともに、SNS での情報発信などにおいては、フォロー数などの数値で現れる成果を効果の指標として活用する。

また、地域防災等についての意識の高まりを重要視して、例えば「居住地における避難場所を確認した」や、「家族で災害時の集合場所を確認した」などの防災・災害時への意識の変化を調査する。また、地域の方との様々な関わりの場において、工業高校生としてできることなどの視点から積極的に意見を述べるなど、コミュニケーション能力の育成等の観点においても、生徒の自己評価や教員の評価のみならず、自治体や地元住民の方に協働による取組の中で評価いただく。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
国立大学法人岐阜大学 地域協学センター 副センター長 工学部教授	佐々木 実
公益財団法人 ソフトピアジャパン ITものづくりセンター長	柴田 英明
各務原市役所 産業活力部 商工振興課 企業人材全力応援室 室長	長屋 千秋
笠松町役場企画環境経済部 部長	堀 仁志
岐阜県信用保証協会 企業支援部 部長 (MBA)	渡辺 直
川崎岐阜協同組合 理事長	井上 良介
一般社団法人岐阜電業協会 理事	川田 弘
一般社団法人岐阜県建設業協会 労働委員	阿部 嘉澄
岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	江口 健治郎
岐阜県教育委員会 学校支援課 課長	坂井 和裕

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアムを構成する学校・団体間で、年2回の会議での検討の他、課題ごとのワーキンググループを構築する。また、クラウド型グループウェアを利用し、情報共有を図る

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

コンソーシアムのメンバーに学校の教育の実際（生徒の姿）を見てもらいながら、産業界や地域が求める人材像と、学校が育てようとする人材像のすり合わせ協働で行い、研究の方向性の共通理解を図る。また、クラウド型グループウェアを活用することにより、問題点や課題に対して、その解決方法の提案を円滑に行えるように工夫する。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画等

所属	氏名	配置計画・役割
各務原市役所 産業活力部 商工振興課 企業人材全力応援室 室長	長屋 千秋	元岐阜工業高等学校長であり、岐阜工業高等学校の教育の内容を十分理解しているとともに、地域産業界との関わりが深い。そのため、定期的に学校に訪問してもらい、学校や地域、生徒の実態などの分析を通して、学校の教育目標と重点目標及び重点的取組の整合性を確認しつつ、学校職員等とともにカリキュラム開発を行う。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画等

所属	氏名	配置計画・役割
国立学校法人岐阜大学 地域協学センター 副センター長 工学部教授	佐々木 実	定期的に学校に訪問してもらい、学校職員等とともに、地域の課題発見から、課題解決に向けた探究的な取組の手法等の助言をいただく。また、多様な地域資源の発掘や地域ネットワークの構築をはじめ、地域を超えた交流の場を創出し、人と人との有機的なつながりが生まれるための支援を行う。

(6) 運営指導委員会の体制

国立大学法人岐阜大学 地域協学センター 副センター長 工学部教授	佐々木 実
公益財団法人 ソフトピアジャパン ITものづくりセンター長	柴田 英明
笠松町役場企画環境経済部 部長	堀 仁志
中村精工株式会社 取締役	中村 明博
株式会社 川田電機工務店 代表取締役社長	川田 弘
株式会社 加藤組 代表取締役	加藤 大武
岐阜県商工労働部 航空宇宙産業課 課長	平野 昌彦
岐阜県教育委員会 学校支援課 課長	坂井 和裕

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

事業成果の検証は、生徒の自己評価や教員による評価のみならず、協力団体や企業及び個人から、様々なテストフィールドや取組の都度、アンケートや聞き取りを主体とした評価によって行い、PDCAサイクルを用いたブラッシュアップへつなげる。

①研究成果報告

生徒研究発表会を令和2年2月に開催し、企業、大学及び各種専門学校等の約50団体の方を生徒研究発表会に招き、関係者のみならず保護者や一般の方にも広くその成果を報告するとともに、評価指針及び独自アンケート調査の結果により事業成果の検証を行う。

②コンソーシアム会議の実施（年2回）

関連産業の業界団体、大学等の研究機関、地元自治体から構成するコンソーシアム委員との会議を開催し、委員よりの意見を基に設定した、目標設定による到達度の評価を行う。

③外部関係者よりの評価

外部講師として実習をサポートいただくために招聘する関連企業熟練技能者の方や、作成した物を利用者の方と一緒に作品を作り上げる機会を設けて、関わりを持った外部の方より、アンケートや聞き取りにより、直接評価をいただき、事業成果・効果の検証を行う。

④生徒の意識調査

生徒が「何ができるようになったか」のみの評価にとどまらず、本事業においては、生徒の地域への想いや関わり方についての意識の変容も事業成果として、その結果より検証を行う。

⑤運営指導委員会の実施（年2回）

上記の様々な方からの評価を受けて、関連企業、大学、地元自治体等から構成する運営指導委員会において、事業成果の検証を行う。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

岐阜大学と連携し、SSH、SGHなど岐阜県内の認定校により構成されるスーパースクールセッション（県単独事業）を継続し、本事業で身に付けた力を発揮したり、見方や考え方の幅を広げる機会を充実させ、プログラムの効果をさらに向上させる取り組みを行う。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

校内の研究組織やコンソーシアムを継続し、地域課題の解決を深める。

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ぎふけんりつぎふこうぎょうこうとうがっこう				②所在都道府県	岐阜県
2019～2021	①学校名	岐阜県立岐阜工業高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	学科	2年	3年	計	本校は県内工業高校でもトップクラスの大規模校であり、8学科9クラスを設置している。地域の産業界のニーズを踏まえ、平成30年度の入学生（現2年生）より既存の8学科を4学科群（航空・機械工学科群／電気・電子工学科群／建設・デザイン工学科群／化学・設備工学科群）に再編成し、くくり募集とした。	
航空・機械工学科群	120	航空機械工学	80	80	360		
		電子機械工学	40	40			
電気・電子工学科群	80	電気工学	40	40	240		
		電子工学	40	40			
建設・デザイン工学科群	80	建設工学	40	40	240		
		デザイン工学	40	40			
化学・設備工学科群	80	化学技術工学	40	40	240		
		設備システム工学	40	40			
⑥研究開発構想名	地域資源を核とした地域産業の未来の扉を拓くテクノロジストの育成						
⑦研究開発の概要	<p>本県の課題は「人口減少」であると考え。よって、本事業を通じて「地域産業を担うテクノロジストの育成」、「地域を愛するテクノロジストの育成」、「地域を守るテクノロジストの育成」であり、地域の課題に対して、ものづくりの視点から解決を図ることができる人材育成を行う。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>Society5.0 が目指す社会は、人工バランスや生活の基盤となるあらゆる産業が高度に調和した世界であることを理解して、社会の変化に対応しうる「幅広い視野と高い見識や技術」を持ち、テクノロジスト固有の能力と現代社会が抱える諸問題とのマッチングを図り、「課題発見力・創造力」と「取り組みの評価収集からデータ分析を用いてブラッシュアップする力」を身に付け、「積極的に地域をより良くしよう」との想いから行動できる、地域に希望をもたらすことができるテクノロジスト人材の育成を目指す。</p>					
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>「岐阜県成長・雇用戦略2017」において、現状・課題として「人口減少・少子高齢化や景気の緩やかな回復基調等を背景に、有効求人倍率の高い状況が続いており、県内企業にとって人手不足が深刻化している」と挙げられている。本県は、県内総生産や従業員数の約4分の1を製造業が占めることなどから、工業高校生に県内各産業を担う人材としての期待が大きい。その一方で、他県への就職者も、景気の回復に合わせて近年は増加傾向にあり、人材の県外流出が県内企業の人手不足に拍車をかけている。本県の平成28年人口動態統計調査によると、人材の流出は20代が最も多く、高等学校、大学、専門学校などの卒業後数年を経て顕著になることから、地域の担い手育成に大きな影響を及ぼし、人口減少に対応するためには、地域や地域産業を維持・発展させる必要があると考える。</p> <p>これらの課題に対して、地域産業を担う人材として、どのような資質・能力が求められているのかや、地域の魅力等の現状を的確に理解し、地域のために高校生に何ができるのか、地域の発展や安全を願って工業技術の視点から地域に貢献することができる人材の育成が必要であり、そのためには、「地域産業の担い手不足」「地域の活性化」「地域の防災・災害時対応」に対して解決を図るためのカリキュラム等について研究開発が必要であると仮定する。</p>					

⑧-2 具 体 的 内 容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>ア 地域産業を担うテクノロジストの育成</p> <p>本県では製造業や第4次産業等の伸長による県経済の発展や雇用拡大に大きな期待を寄せており、これらの活性化には人材育成が必要不可欠であり、地域産業の担い手不足を解消するために、高精度、高効率なものづくりを目指した製造技術の探究や、知識・技術の高度な共有化をITにより実現する方策を探究することにより、地元産業を担い、発展に寄与できる人材の育成を目指す。</p> <p>(ア) 地元の産業、企業の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岐阜県商工労働部と連携した企業見学会の実施。 ○インターンシップによる就業体験（第2学年）及び情報の共有。 <p>(イ) 地域産業人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業を担う人材育成 ○航空宇宙産業における基礎から応用までの技能の向上と、教材開発の研究 ○金型製作を通じた、「ものづくり」の魅力の発見と、実践的な技術、技能の育成 ○第4次産業を担う人材の育成 ○様々な分野における感情認識ロボット、IoT及びAIの活用法の提案を通じた、ICT活用能力の育成 ・建設業におけるICT化を担う人材育成 ○BIMやCIMによる設計及び設計の効率化の研究 <p>イ 地域を愛するテクノロジストの育成</p> <p>地域の魅力発信や新たなビジネスモデルを探究し、魅力あるビジネスを構築できる人材の育成。</p> <p>(ア) 地域理解と魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元観光MAPの作成やPRグッズの提案・製作など、SNSなどを活用した地域の魅力発信の研究。 <p>(イ) 新たなビジネスモデル提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと納税の返礼品を題材に、プロジェクションマッピング等を加えた新しいビジネスの提案。 <p>(ウ) 地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域イベントに、「ものづくり教室」等を出展等するなど、ものづくりを通して街の活性化を図る実践。 <p>ウ 地域を守るテクノロジストの育成</p> <p>地域の防災における課題の探究と、ものづくりや工業技術を通して安心・安全な住環境を構築する新たな分野のテクノロジストを育成するとともに、魅力ある地域の創造を促す。また、地域防災の在り方を考え、ものづくり・工業技術を通じた地域の防災の課題に向けた取組を実施する。</p> <p>(ア) 防災・減災</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元笠松町の防災計画などの現状を学び、ドローン等を活用した防災・減災への取組についての研究 <p>(イ) 災害時対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飲料用水製造ろ過技術の開発の研究 ○太陽光発電等の自然エネルギー等による発電の効率化及び最適化の研究 <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>カリキュラム開発等専門家とともに、研究推進委員会の管理により実践し、研究年度ごとに改善を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>なし</p>
⑨ そ の 他 特 記 事 項	<p>当推進事業におけるプロフェッショナル型の事業認定校と、成果の共有・情報交換に務める。</p>